

パーキンエルマー・ジャパン

卓越した技術から生まれた分析機器を展開 「環境」に向けた先進ソリューションに注力

1938年に分析機器の専門メーカーとして事業をスタートしたパーキンエルマーは、環境、化学、医療、半導体など幅広い分野で事業を展開している分析機器のパイオニアだ。特に、ライフサイエンスの分野では最先端のソリューションを提供するグローバルリーディングカンパニーとして高く評価されている。1978年に設立された同社日本法人パーキンエルマー・ジャパンは、これまで培った分析関連の技術やノウハウを駆使して「環境」にまつわる様々な問題解決に役立つソリューションを強化する考えだ。

パーキンエルマー・ジャパンは、ライフサイエンス事業部、ジェネティックスクリーニング事業部、分析機器事業部といった三つの事業部を設けている。また、カスタマーサービス部で設置後の保守・修理を行っている。

ライフサイエンス事業部は、研究機関や製薬企業などにおける創薬を中心に幅広いニーズに対応した事業を展開している。従来から展開している放射性標識化合物およびその測定装置をはじめ、バイオマーカー定量に代表されるアッセイ開発手法およびキットの提供にも力を入れている。最近では、従来の顕微鏡観察に定性解析から、多変数定量解析(HCA)および3次元、4次元解析へのハードウェアとソフトウェアの提供を始めた。「遺伝子解析、タンパク解析が成熟しつつある現在、組織解析の前段階として細胞レ



鈴木 秀敏氏
パーキンエルマー・ジャパン
代表取締役社長

ベルの解析が必須です。それには、スループットの高い複雑な解析が容易にできることが間違いなくブレークスルーになるはずです。そのためハードウェアとソフトウェア、その使用方法も含めて最先端の技術を提供しないとお客様のニーズに応えられません」(代表取締役社長 鈴木秀敏氏)。

ジェネティックスクリーニング事業部は、妊婦、新生児、成人の全てのライフサイクルにおける診断事業を世界で展開している。パーキンエルマーは、この分野における有力企業の一つとして知られている。その中でも、新生児の先天性代謝異常症の早期発見に向けた技術では、世界でもトップの実績を誇る。例えばアミノ酸代謝異常症の一つであるフェニルケトン尿症は、およそ10万人に1人の割合で発見されている知的障害や痙攣を起こす疾患だが、早期に発見すれば治療を施すことができる。このようなアミノ酸代謝異常を含めた先天性代謝異常症の新生児スクリーニングに用いられるのが、同社が提供するMSMS試薬キットや全自動測定装置である。同社の製品によっていち早く疾患が発見された新生児の人数は、2007年に世界で10万人に達したという。

「最近では、高リスク妊婦の健康も社会問題となっています。例えば、妊婦の高血圧症の早期発見に向けた製品でも貢献して行きます。いずれにせよ、重要なのは早期に発見すること。ニッチなマーケットですが、確実に人々の役に立つ事業です。今後とも力を入れて取り組めます」(鈴木氏)。

環境分野に一段と注力

分析機器事業部は、パーキンエルマー・ジャパンが設立当初から展開している分析機器を担当している。現在、同社が展開している分析機器は、大きく4つに分類できる。第1が無機系の分析に向けた装置。原子吸光分析装置、ICP発光分光分析装置、ICP質量分析装置などが含まれる。同社は、無機系分析機器の市場で3割以上のシェアを持っており、世界のトップ・メーカーの一つとして知られている。第2がクロマトグラフ関連の装置。いまのところ日本ではガスクロマトグラフ分析が主流だが、将来は液体クロマトグラフ分析に向けた製品も展開する方針だ。第3が熱分析・有機微量元素分析向けの装置。第4がフーリエ変換赤外分光分析装置、ラマン分光分析装置、紫外可視近赤外分光光度計などの分光分析装置である。同社が提供する分析機器は、いずれも同社独自の技術やノウハウが盛り込まれており、優れたパフォーマンスを備えている。

この分野で同社は、環境関連の市場開拓に力を入れる方針を打ち出している。具体的には、水質、大気、土壌などに含まれる揮発性物質(VOC)や重金属・微量元素、このところ大きな問題となっている食品の残留農薬や添加物などの分析。欧州で施行されている「WEEE指令」や「RoHS指令」といった電気・電子機器にまつわる環境関連の規制に適合するために欠かせない分析。さらに、太陽光発電、風力発電、燃料電池、バイ

オ燃料などのクリーン・エネルギーに関連する分析に必要な製品や技術を積極的に展開する。特に、クリーン・エネルギーの分野については、分析機器のみならず、前処理装置や解析コンサルティングなどを含む総合ソリューションを提供する考えだ。

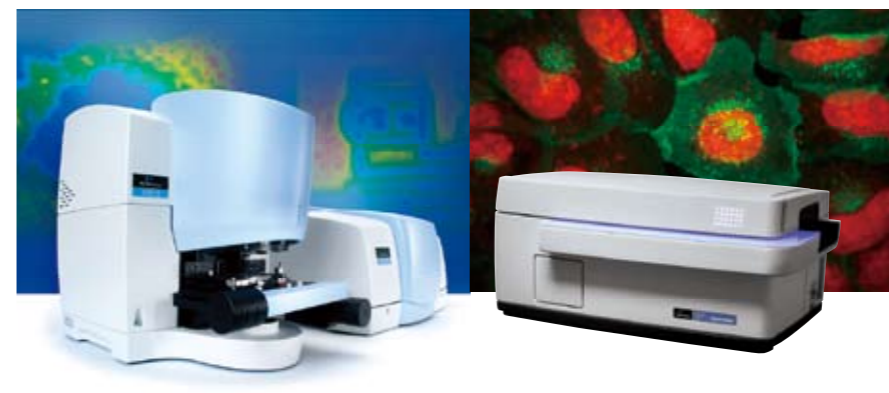
一歩進んだソリューションを提供

環境関連の事業展開を進めるにあたって同社が掲げているコンセプトが、「EcoAnalytix」である。

「EcoAnalytixは、食品・消費財の安全、水質・大気などの環境汚染対策、持続的なエネルギー開発など、地球環境に関する緊急な課題解決に向けた様々な取り組みを指す言葉です。分析技術者が抱える問題を解決する包括的なソリューションのみならず、各分析で要求されるアプリケーションのメソッド開発や標準的な操作手順などのノウハウやアフターサービスを含んだトータル・ソリューションをご提供する考えです」(鈴木氏)。

例えば太陽電池の分野では、変換効率に大きな影響を与える材料の不純物管理に、同社の原子吸光分析装置、ICP発光分光分析装置、ICP質量分析装置などの無機系分析機器が役立つ。特にホウ素とリンの管理には、こうした機器が不可欠だ。

ガスクロマトグラフ質量分析計は、バイオエタノールなどクリーン・エネルギー分野における成分分析において有用な装置だ。アウトガス分析に用いるトラップサンプラーや



サーマルデゾーションシステムなどの前処理装置を組み合わせることによって、高感度の分析を実現できる。構造解析や品質評価に用いられているフーリエ変換分析技術は、燃料電池(PEFC)等の固体高分子膜の材料特性の測定に展開できる。

このほか偏光フィルムの透過特性、太陽電池パネルの反射率などの測定、太陽電池表面の膜厚測定やガラスの反射率測定に役立つ紫外可視近赤外分光光度計も同社は提供している。

「海外の製品を輸入して、ただ販売するだけでは、なかなかお客様に受け入れてはいただけません。日本のお客様のニーズに合わせて仕様を最適化する必要があります。ただし、これは私たちだけでは実現できません。国内外の企業と積極的にパートナーシップを築く方針です」(鈴木氏)。

環境活動で社内の意識を向上

「EcoAnalytix」を掲げて事業を展開する同社は、環境活動にも積極的に取り組んで

いる。例えば、2008年6月に本社、テクニカルセンター、東京営業所において環境マネジメントシステム「ISO14001」を取得。同社設立30周年を機に「苗木植林活動」もスタートさせた。日本国内でパーキンエルマーの機器が1台販売されるごとに収益の一部を国内外の森づくりのために寄付をするという活動だ。

「オフィスでの紙や電気の使用量を減らすといった社内における日常の取り組みも重視しています。EcoAnalytixを追求するうえで、環境問題に対する意識を社内で高めることが重要だからです」(鈴木氏)。

パーキンエルマー・ジャパンは、分析の分野で培った極めて高度な技術やノウハウを駆使して、環境問題に取り組む技術者を支援する方針を明確に打ち出している。低炭素社会の実現という新たな課題に取り組む技術者にとって、有力なソリューション・プロバイダの一つといえよう。

お問い合わせ先



株式会社パーキンエルマー・ジャパン
〒240-0005 横浜市保土ヶ谷区神戸町134
横浜ビジネスパークテクニカルセンター4F

分析機器事業部
TEL.045-339-5861 FAX.045-339-5871
ライフサイエンス事業部
TEL.045-339-5862 FAX.045-339-5872
ジェネティックスクリーニング事業部
TEL.045-339-5883 FAX.045-339-5872